

会

期中の週末、カーボンオフセットを紹介するブース前の芝生では、子どもたちがテーブルに着き、間伐材を利用したウッドクラフトや葉っぱを使ったおりづくりを楽しんでいた。「J.P.子どもの森づくり運動」のイベントだ。子どもたちは森からの贈り物を使い、独創的な形を次々と完成させていく。

この「J.P.子どもの森づくり運動」は、日本郵政グループと子どもの森づくり推進ネットワークが協働する事業。自然を体感してもらい、子どもたちの健全な環境意識を育もうと

いう運動だ。郵便局など、全国に広がるネットワークを持つ日本郵政グループの強みを活かした取り組みとなっている。

また、ブースでは、日本郵便の「カーボンオフセットはがき」の取り組みが紹介されていた。昨年、平成20年用の年賀はがきとして登場した「カーボンオフセット年賀」は5円の寄付金付き。その年賀が購入されることで集まる寄付金に、日本郵便も同額のマッチング寄付を行い、その総額を地球温暖化防止助成事業や途上国におけるCO₂削減事業に



CO₂削減量
2万6928t
-CO₂
(年間)

①日本郵便の展示パネル前で。左から小野田さん、鍋田さん、白神さん。②カーボンオフセット年賀の寄付金で助成される、アルゼンチンの風力発電でのCO₂削減量は、2万3172本のカシの木が吸収してくれる量に相当。③展示をていねいに見る来場者たち。④今年から、暑中・残暑見舞いはがきの「かもめーる」に、カーボンオフセットはがきが登場。「暑い」夏にしないためにも、カーボンオフセットでどうぞ(下は、昨年発売されたカーボンオフセット年賀)。



JP・地球温暖化防止助成事業(平成20年度)で助成された「アルゼンチンにおける風力発電事業」での1年間あたりの削減量。

LOHAS SCALE

SUSTAINABLE ZONE

RINGINMATSURI

LOHAS STAGE

OTHER TOPICS

カーボンオフセット + 日本郵便

Carbon Offset + JAPAN POST

はがきというコミュニケーションツールで、「カーボンオフセット」が全国に広まる。

今年の夏、暑中見舞いにカーボンオフセットはがきの「かもめーる」はいかが？ みんなで環境への思いを共有しましょう！

使おうというものだ。今回は総額1億4985万円が、温室効果ガス排出権(クレジット)の取得・償却のために使われることになった。

今夏も、暑中・残暑見舞いはがきの「かもめーる」で、同様のカーボンオフセットはがきが発売されている。「カーボンオフセット年賀の販売数は約1500万枚でした。つまり、1500万人に「カーボンオフセット」というメッセージが送られたこととなります。個人で排出権を購入することは難しいですが、はがきでなら気軽に参加できる。そして、環

境を守ろうというメッセージが広まるのです」と、日本郵便の小野田勝洋さん。また、同社の白神歩さんは「昨年まで聞き慣れない言葉だったカーボンオフセットですが、今ではたくさんの方が興味を持ってくださるようになり、うれしいですね」と言い、鍋田英一さんは「地球温暖化はこれからずっと続いていく課題。地球のために何ができるのか、それにふさわしい商品をつくっていくことが大切です。カーボンオフセットはがきも、これからの長い取り組みになるでしょう」と語ってくれた。

地球温暖化防止は、これから息長く続けていかなければいけない取り組み。



⑤ 間伐材を使ったウッドクラフトづくりに挑戦した女の子。お母さんもいっしょにお手伝い。子どもの森づくり推進ネットワーク代表の清水英二さんは「自然に触れてもらいたいのは子どもだけではなく、実は、親も自然に触れる機会が減っているのです」と話していた。⑥⑦ みんなが思い思いの個性を發揮して、作品づくり。

from Visitors! 重さをしっかり受け止めました。

これが日本人1人あたりのCO₂排出量、1日分相当ですか。結構、重いんですね……。ビックです!(佐藤翔平さん、今井康世さん。)

